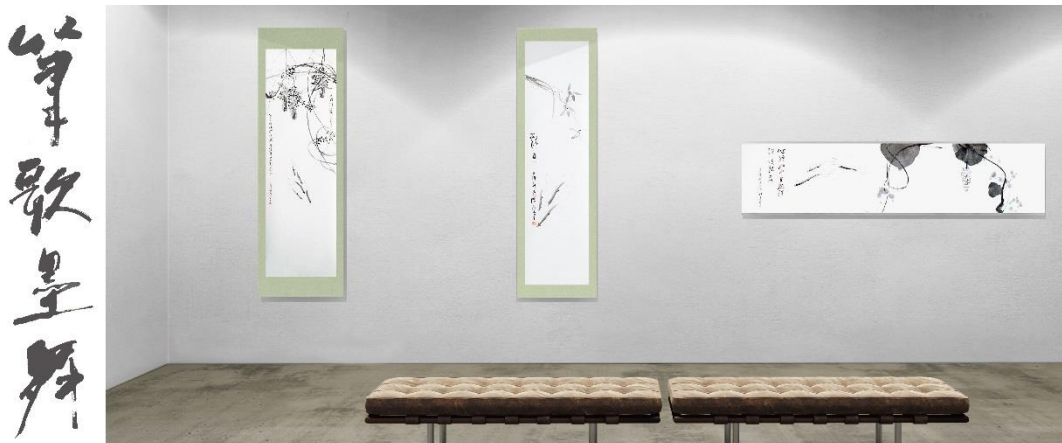


筆歌墨舞 王傳峰、隈研吾

100 点以上の作品を本邦初公開



(イメージ写真)

会期：4月20～24日

時間：10:00～17:00 最終日は14:00まで)

会場：上野の森美術館本館

開幕式：4月20日午後2時

世界的に有名な建築家の隈研吾、著名な中国画家の王傳峰、アート業界での風雲児二人の合同展示会でどのような物語が始まるのか？東京中央オークションでは、書画展「筆歌墨舞」を開催し、二人の巨匠が共同制作した100点以上の書画水墨作品を初公開いたします。

隈研吾が個人的に書法作品を発表するのはこれが初めてであり、アート界と美術史にとって重要な事となるでしょう！

20年来の友人で、初めての合同展示会

王傳峰と隈研吾は20年来の友人であり、創作理念の一致：東洋と西洋の美学の均衡を見つけるという事で、親しい友人になりました。

東京の銀座にある「王傳峰美術館」は、隈研吾ご自身が設計したものであり、二人の友情を物語っています。この展示会は、王傳峰が絵を描き、隈研吾が書法を描いています。

隈研吾の書法は建築から始まり、空間と構造の感覚を書法の創作に応用し、書法の線をよりシンプルでタフなものにしています。

王傳峰の絵画は、自身の生活から、簡約さと素朴さ、或いは純粋な墨や淡彩が施され、豊かな芸術的效果が生み出されます。

建築巨匠隈研吾

隈研吾は、日本の建築界の巨匠で、彼は世界中で建物を設計、高い国際的な評判を享受し、数々の賞を受賞しています。

彼は人類と自然の調和と統一を提唱し、彼の建築作品の下で「建築を消滅させる」というデザインコンセプトを堅持しています。生命の継続を象徴する創造と自然の調和を追求し、木をふんだんに使用した伝統的な日本のデザインを際立たせ、ラインと原木のタッチを強調し、現代性を失わず、オリエンタルな禅の雰囲気醸し出しています。

王傳峰の書画の世界

王傳峰は著名な画家であり、特に日本の林派の画風が得意です。彼は伝統的な哲学から芸術的なインスピレーションを引き出し、和紙と織り交ぜられた色合いを組み合わせることで、独特な視覚的インパクト作品を生み出しています。

2004年には東京国立博物館で個展が開催されました。この個展は東京国立博物館設立から100年以上の歴史の中で、存命している芸術家による個展を開催するのは初めての快挙ということです。

彼の作品は魚の絵が有名で、彼曰く「中国は根であり、日本は水であり、中国と日本の友好関係はそれぞれが住む海であり、私は中国と日本の文化交流のために泳ぐ『魚』です。」と発言しています。そこで魚と水を彼のユニークな絵画の主題にしました。(下の画像を参照)彼は「日中友好の象徴」でもあり、彼の作品は日中友好の記念切手として2度選ばれています。

この展覧会には100点以上の作品があり、二人の美の本質が表れております。シンプルで素朴な作品を通じ、見る人の心を打つことを期待しております。今後、彼らの作品をより深くご紹介していく予定ですので、ご期待ください。



《影》 228cm×53cm



《月》 228×53cm



出展作品「心静」を吟味する王傳峰（左）、東京中央オークション社長の安藤湘桂（右）、副社長の葛文海（左から2番目）。



《春風意》